



# I. 有形文化財

建造物

国選定文化財

重要伝統的建造物群保存地区

国宝(平30.12.25)



那覇市

たま うどうん  
**玉 陵**



細かなリンゴが敷き詰められた静かな場所だね。



獅子像をはじめとして、仏さまやコウモリ、花鳥風月をあらわしたさまざまなレリーフが墓室前の石欄に取り付けられているよ。下陵は1501年当時の首里城を形どっているんだ。その首里城は板垣さだつたんだね。



## 第二尚氏歴代の王が眠る沖縄最大の墓



玉陵正面(東から)

玉陵は第二尚氏王統歴代の陵墓です。三代目の尚真王が、父親である尚円(同王統の初代)の遺骨を見上森陵から移葬するため、1501(弘治14)年に建てたものです。周囲は石牆をめぐらし、墓室は自然の崖壁を掘り込んで作られ、東室、中室、西室が並んでいます。東室は洗骨後の王・王妃の遺骨を安置する場所で、中室は洗骨までの遺体を安置する「しるひらし」と呼ばれる場所です。西室は王・王妃以外の家族の遺骨を安置しました。

陵墓は石造りで、木造建築の切妻屋根の形を表現しています。棟には尚家の家紋や牡丹・唐草・宝珠等を彫り、東西両袖塔と中央の円塔上には陵墓を守護する石彫りの獅子像があります。沖縄戦で破壊されましたが、1974(昭和49)年から3年余の歳月をかけ大規模な修復工事が行われ、2000(平成12)年に世界遺産の一資産として登録されたのに続き、2018(平成30)年12月に建造物としては沖縄県初の国宝に指定されました。



■ 玉陵正面(西から)



■ 中室側円塔上にある石彫獅子



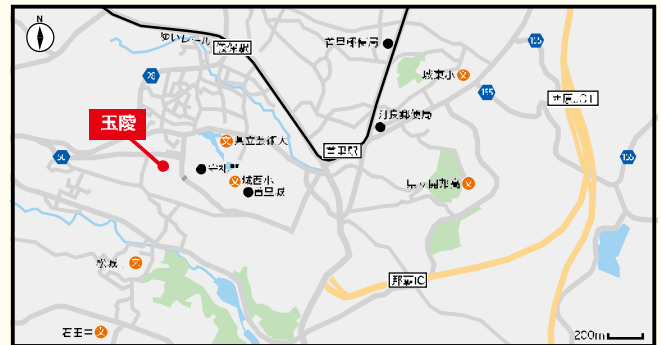
■ 東室側塔上にある石彫獅子



■ 中室へ昇る階段



■ 玉陵の門と墓室



26°13'05.9"N 127°42'52.6"E



たくさんの観光客が訪れる首里城。その首里城の西には第二尚氏王統の王たちが眠る玉陵があります。白く細かい枝サンゴが敷き詰められ、首里城のにぎやかさとは別の静けさに包まれた場所です。

墓室は三つあり、真ん中にある中室は、洗骨前の遺体が安置される部屋です。向かって左の東室は、第二尚氏初代の尚円王と第三代尚真王から最後の国王第十九代尚泰王までの王とその王妃たちが葬られています(第二代の尚宣威王と第七代の尚寧王は別の陵墓に葬られています)。向かって右の西室には、墓室前の御庭に建てられている「玉陵の碑」に記されている王族が葬られています。

安置されている厨子(蔵骨器)は、中室に1基、東室には37基、西室には32基と、あわせて70基あります。東室の一番奥に安置されているのは尚円王で、手前には尚泰王の長男である尚典とその夫人と一緒に眠っています。西室には、初代聞得大君であった月清をはじめ、さまざまな方向を向いて厨子が安置されています。ちなみに西室には被葬者が不明の厨子が16基あります。

不思議なのは、洗骨前の遺体が安置されるはずの中室に厨子が置かれている事です。厨子には粉状になった骨が少しだけ残っていました。この骨が誰のものなのかは、判っていません。

厨子の材質は時代によって変化しています。尚円王の厨子は輝緑岩製で、細かい彫刻が施されていますが、尚真王からは石灰岩製で尚円王に比べると簡素なつくりになっています。第十七代の尚敬王からは、陶器の厨子に変わります。このように材質が輝緑岩から石灰岩、そして陶器製へと変わるのです。玉陵の入口にある資料館には、尚円王から尚泰王の六女まで、東・中・西それぞれに安置されている厨子の写真が展示されていますので、どのように材質や形が変化しているのかを見学するといいでしょう。また資料室には、1920(大正9)年に亡くなった尚典の葬儀の写真も展示されていますよ。



■ 尚円王の厨子



■ 尚真王・尚清王の厨子



■ 尚敬王の厨子

#### 玉陵公式webサイト



#### 玉陵観覧時間と観覧料金

観覧料金  
午前9時から午後6時まで  
(入場締切 午後5時30分)  
年中無休

#### 観覧料金

大人個人 300円  
小人(中学生以下)個人 150円  
団体については、公式webページ  
を確認するか、直接、お問い合わせ  
ください。

#### お問い合わせ

玉陵管理事務所  
〒903-0815  
那覇市金城町1-3  
電話 098-885-2861

那覇市市民文化部 文化財課  
電話 098-917-3501

(写真提供:沖縄県立博物館・美術館)

#### 【参考文献】

那覇市市民文化部, 2005年, 『玉陵ガイドブック』, 那覇市市民文化部